

水稻(品種：ちば28号(愛称：ふさこがね))

千葉農林振興センター

1 地区名

市原市新堀地区ほか2地区

2 栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 3戸
- (2) 栽培面積 160 a
- (3) 収穫量又は出荷量 8,640kg 540kg/10 a
- (4) 出荷先又は販売方法 道の駅「あずの里」 いちはら たまごの駅 直接販売

3 ちばエコ基準達成状況

区 分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬(成分回数)	5回	7回
化学肥料(窒素分量)	4.28kg/10a	4.5kg/10a

4 事例のあらまし

千葉県育成の新品種「ちば28号(愛称:ふさこがね)」は、良食味で耐倒伏性でいもち病にも強い特性を有し、平成18年度から一般栽培が始まったことを受け、ちばエコ栽培の普及展示ほを設置してきました。展示ほでは、土づくりや肥料・農薬の資材についても検討を加えてきました。平成18年度は、気象等の影響により、品種本来の特性がみられませんでした。

そこで、平成19年度は食味や品質に重点を置き、地力に応じた施肥設計により実施しました。その結果、収量は540kg/10 a、千粒重は24gを超え心白もなく、収量・品質ともに良好でした。

5 背景・動機

市原市の水稻面積は約3,000haで、そのうち約2%にあたる60haをちばエコ農産物の認証を得て、販売につなげていくことを目標に普及活動を行っています。同市では、JA市原市のブランド米「養老のめぐみ」生産者グループ(26人)が中心となって、ちばエコ農業に取り組んできました。

「養老のめぐみ」はJAグループ千葉もっと安心農産物の登録及びちばエコ農産物認証を受けたコシヒカリですが、平成18年度からは、早生品種ふさおとめを加えて2品種で取り組んでいます。

しかし、コシヒカリの作付けが約95%を占めており、品揃えや多様な消費者ニーズに応えるためにも、値頃感のある良食味な品種が求められていました。

この「ちば28号」は、いもち病に強い特性を持ち、農薬の使用を極力抑えたエコ栽培に適しています。気象の変動に強く、乳白米が少なく、コシヒカりに引けをとらない食味があり、新しい顧客の開拓にも期待されるアイテムとなっているので、その特徴を生かした栽培方法の確立が必要となっています。

平成19年度「ちば28号」は生産者3名、面積にして160aが「ちばエコ認証」され、道の駅「あずの里」いちほら等の直売所で販売されています。

また、平成18年度に設立した市原市農業振興協会水稻部（35名）は、活動の目的にちばエコ農業の推進を掲げ、市内の米を積極的にPRすることとしています。

この展示ほは、水稻部が中心となり「ちば28号」のちばエコ栽培や新品種の作り方について研鑽を行ってきたものです。



「ちば28号」展示ほ現地検討会



看板で展示ほの目的や生育情報を掲示

6 栽培方法

J A市原市のJ Aグループ千葉もっと安心米（ふさおとめ）栽培暦に準じた肥料と農薬を使用しました。ただし、食味向上を図るため、追肥には有機質割合の少ないタイプの肥料に変更しています。

(1) 土づくり

稲ワラの鋤き込み又は主に牛ふんの完熟たい肥（成分分析がされているもの）を施用して地力の低下を防ぎました。

(2) 播 種

病気の発生を防ぐため生物農薬のエコホープで種子消毒を行い、種子は薄播きとし乾籾換算で140g/箱としました。

(3) 育 苗

出芽後は高温にならないように注意し、緑化期以降はプール育苗により十分な採光と通風により健苗に努めました。

ア 栽培管理

作業名	実施年月日
前作収穫終了	平成18年 9月10日
耕 起	10月15日
播 種	平成19年 3月21日
移 植	4月14日
病虫害防除	7月24日
収穫開始	8月26日
収穫終了	8月28日

イ 使用資材

(ア) 土づくり・施肥等

(10 a 当たり)

使用銘柄 (N:P:K)	実施年月日	施用量	全 N	化学N
稲ワラ	平成18年10月15日	0.5t		
マイルドユーキ030	平成19年 4月14日	40kg	4.0kg	1.88kg
有機追肥530特号	6月24日	20kg	3.0kg	2.40kg
合 計			7.0kg	4.28kg

(イ) 病虫害・雑草防除等

使用農薬	対象病虫害	実施年月日
※エコホープドライ	もみ枯細菌病、ばか苗病等	平成19年 3月19日
ミスターホームランLフロアブル	ノビエ等の雑草	4月27日
アミスタートレボンSE	いもち病、カメムシ等	7月24日

※印は、「化学合成農薬に含めない農薬」

(4) 定 植

栽植密度は標準的な株間18.0cmで18.7株/m² (61.7株/坪) とし、分けつが旺盛なので植付本数は3.6本/株 (67.2本/m²) としました。

(5) 施 肥

ちば28号はコシヒカリより肥料を必要とするため、有機態窒素配合の肥料を選定しました。基肥は、初期生育を確保するため5割が有機態窒素の「マイルドユーキ030」を用い側条施肥しました。追肥は幼穂長1cmの時期に2割が有機態窒素の「有機追肥530特号」を施用しました。

(6) 病虫害防除

雑草が少ないほ場を選定し、適期に一発処理剤を散布しました。病虫害の防除は有人ヘリによる「アミスタートレボンSE」で防除を行いました。

(7) 水 管 理

移植後は水を切らさないように小まめに入水して雑草の抑制を図りました。目標茎数を確保してから中干し管理を行い、その後の間断かんがいや落水は標準的な水管理を励行しました。

(8) 畦畔管理

省力的な自走式の草刈り機を用い、定期的に除草管理をおこない、雑草由来の病害虫の発生について予防に努めました。

(9) 収 穫

帯緑色もみ歩合を確かめ適期に刈り取りを行いました。

7 今後の展望等

生産面では、低温時の移植となるため生産者間で生育の違いが大きく、生産者の評価が大きく分かれています。しかし、比較的できすぎる傾向にあるので、できるだけ食味を意識し、肥料を控えた栽培をする必要があると思われます。

販売面は、農協出荷では「JAグループ千葉もっと安心農産物」の対象外となっているため、エコ栽培で販売のメリットをだすには直売所や庭先販売で売るしかない現状にあります。「ちば28号（愛称：ふさこがね）」の宣伝活動を強化して、もっと知名度をあげる必要があります。

また、食味にこだわるためにも生産者自ら、お米の貯蔵方法や炊飯の仕方など美味しく食べられる方法の研究を進める必要があります。